

地域社会との密接な連携を築く

—地域の人材を活用した協働活動を通して—

みよし市立中部小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校はみよし市の中心部に位置し、明治6年に市内で1番目に開校した小学校である。今年で開校144年目を迎えた。現在、全校児童504名、全教職員44名である。

本学区内には、みよし市役所、図書館学習交流プラザ「サンライブ」、三好文化センター「サンアート」など市内の主な公共施設がある。また、大提灯で有名な三好稲荷閣が隣接している。本校校門前には名鉄バス豊田線（新屋・衣ヶ原経由）三好停留所があり、名古屋市や豊田市とつながっている。

本校では「全員がバスに乗る」見つけ学習による授業研究を長年続けている。また、平成26年・27年度文部科学省国立教育政策研究所より「魅力ある学校づくり」調査研究事業の指定を受け研究を行った。

2 研究のねらい

激しく変化する社会状況の中、学校教育への課題はますます複雑化、多様化してきている。これからの学校は、地域に住んでいる学校教育の応援者として連携・協働が可能な地域人材を調査し、活用することが重要である。本校では、運動会などの学校行事や祭礼などの地域の伝統行事を学校と保護者や地域住民とがそれぞれの役割を生かし連携・協働している。保護者、地域から信頼されるとともに、学校への協力を惜しまない地域との連携が大切である。P T Aと協力し、祖父母や親子がふれあう協働活動を通して、地域社会との密接な連携を築くことができると考えた。

3 研究の仮説

運動会などの学校行事は学校と保護者や地域住民とが連携して協働する。保護者や地域ボランティア、学生ボランティアなどと協働し、常に保護者や地域の意見を聞く。親子や祖父母が関わる協働活動を企画し、学校行事等で教職員と保護者や地域の人々とのつながりの機会を多くすることで、地域や保護者との関係が深まり、信頼関係が構築されるであろう。

4 研究の方法

- ・保護者や地域の方々に「軒先見守り隊」として協力してもらい、地域で子どもたちを守る。
- ・P T Aと協力し、親子だけでなく祖父母を招待する祖父母学級を実施する。
- ・保護者と地域ボランティアグループ「アップルメント」による読み聞かせを定期的実施する。
- ・父親や地域の男性を中心にした「おやじの会」を組織し、学校行事など協働する。



- ・地域と連携したPTAバザーを実施する。

5 研究の実践

(1) PTA祖父母学級の実施



<祖父母学級の様子>

9月の「敬老の日」を迎えるにあたって、PTAと協力し祖父母学級を開催した。まずは子どもたちの祖父母へ、祖父母学級のお誘いの手紙を児童が文面に記した。オープニングではPTAと児童が協働で進行を行ったり、祖父母の誘導はPTAの役員が行った。その後のふれあい活動は祖父母と一緒に体育館でカラーリングを行ったり、コマ回しや小物づくり、地域からの人材を活用した水墨画の制作したりするなど、学年ごとに違った活動を楽しんだ。

(2) 地域からの支援やボランティアの応援

月に1度、朝の会後に保護者や地域住民の読み聞かせボランティアがそれぞれ思いおもいの絵本を持ち寄って子どもたちに本を読み聞かせている。ときには渡り廊下で2クラス合同で、キーボード、オカリナ、鍵盤ハーモニカでの音楽付きの読み聞かせを行っている。今年度は7月に、10時30分からの長休み時間に読み聞かせを取組んだ。集まってくるのは低学年の子どもたちが中心であるが、聴いている表情が優しくて、話に聴き入っていた。さらに、特別企画で男性一人での読み聞かせが、長休みの時間に子どもたちを集めて行われた。お気に入りの絵本を表情豊かに時間の許す限り読み聞かせた。

また、本校には「おやじの会」という父親を中心とした組織がある。運動会のテント張りなど、学校行事のときに「お助けマン」として協力していただいている。資源回収のときにはトラックで大量に段ボールや新聞や雑誌など地域を回って回収してくださった。

(3) 地域と連携したPTAバザーの実施



11月にPTAバザーを開催した。各家庭からの提供品だけでなく、校区で営業しているパン屋店や中華料理店、飲料関係店などからもPTAが依頼し協賛していただいた。また、校区の老人会の方々からも協賛していただき、バザー当日にも参加していただいた。

また、特別支援学級の児童も授業で栽培した大根を販売するなど、地域と保護者と児童が協働した活動となった。

6 研究の考察、成果と今後の課題

学校教育は、保護者と地域の信頼の上に成り立っている。本研究により、学校を開く姿勢を超え、学校と保護者と地域が一体となって取組めた。今後はさらに、保護者や地域の人々の意見を積極的に教育活動に反映させ、地域のボランティア等の協力を得て、地域の人材を日常的に活用していきたい。そして、教職員が積極的に地域へ出かけ、会議や行事に参加して多くの意見を交換することが今後の課題であると考えている。